

多可子びのタイムズ

2008.12.1
平成20年 11号

発行：多可町教育委員会
〒679-1134 多可郡多可町中区茂利20
☎0795-32-1250
E-mail shakaikyoiku@takacho.jp



おもな内容

- ・町内学校トピックス
- ①いま学校では ②クラスの日記
- ③保健室から ④園長先生の目
- ・町内の県立学校（兵庫県立多可高等学校）
- ・教育委員会からのお知らせ
- ・教育委員会特集
- 多可町っ子の体力について

校では・・・



松井幼稚園

なだちいっぱい 交流会



『多可町内の幼稚園児が交流活動を通して、親睦を深める』ことをねらいに年に2回、4つの園が集まって交流会を行っています。

2回目となった10月末の交流会では、まず各園が運動会で踊ったダンスや体操を発表しました。いつもとは違う場所の上に、たくさんの方の友だちの前ということでちよつぱり緊張した様子もありましたが、たくさんの方の拍手をもらってホッとひと安心。他の園の発表の時には手拍子したり、曲を口ずさんだりしていました。



その後は、各園混合でチームに分かれて追いかけ玉入れやじゃんけんりレーなどの運動会遊びをしました。チームが勝てるよう大きな声で応援するなど、まるでずっと前からの友だちのような姿も見られました。

そして最後は、仲良くなった友だちと一緒に広い芝生の上でお弁当を食べました。知っている友だちに久しぶりに会えた子、新しい友だちができた子、恥ずかしくてうまく話せなかった子……と様々でしたが、みんな生き生きとしていたのが印象的でした。

交流会の後、園では他の園の踊りを取り入れてダンスを踊っている様子が見られました。お互いに刺激し合える、いい一日になりました。

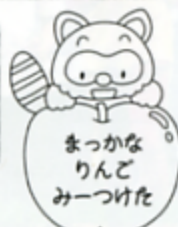


杉原谷幼稚園

あかるく なかよく たくましく 杉幼

実りの秋

杉小4年生の子どもたちと交流活動で一緒に植えたサツマイモを収穫しました。大きなお芋がたくさんとれて大喜びでした。お土産に持って帰ったり、蒸して食べたりしました。「めっちゃ、おいしい」と、おかわりする子が続出し、すぐに売り切れました。お芋の嫌いな子も食べていました。自分で作った物を食べるのは最高ですね。家でも大学芋や天ぷらなどにして食したようです。おいしかったと報告がたくさんありました。



遠足で、片道約3キロもある加美区三谷のハーモニーパークにあるりんご園に歩いて行きました。毎朝、登園は小学生のお兄さんお姉さん達と歩いてやってきましたので、たくましくなったみんなは、それくらいなんのそのです。映画「トトロ」の挿入歌「さんぽ」をみんなで歌いながら歩いて行きました。その途中には、イカがはじけて栗の実が道に転がり、見上げると青い空に、たわわに実った柿の実がまぶしく輝いていました。「わー、すごい、ようさんなつて」などと感動の声をあげながら進みました。家の軒下には、キウイ、カリン等が、畑には季節の野菜が植えられていました。無人の野菜販売所をのぞいたりしながら、わいわいがやがやと行きました。りんご園では、りんごの取り方を教えてもらい、赤くて大きなりんごを見つけて取りました。りんごの良い香りを感じたり、かわいいりんごに思わず頬ずりしたりしていました。

秋の自然に触れ収穫の喜びと秋の味覚を十分に味わいました。



いま、学

キッズランド



いもほり



実りの秋です。
キッズランドでは、5月に植えたサツマイモを収穫しました。
植えた時も、さくら会の役員さんや仕出原老人会のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に、そして今回も、芋ほりをお手伝いいただきました。今年のイモは、いつもに比べると少々小ぶりでしたが、子ども達は土の中から出てきたきれいなお芋に大満足でした。



収穫祭



3歳児から5歳児まで、それぞれ掘ってきたサツマイモを使って、サツマイモ尽くしの料理を作りました。そして、お世話になった方々を招待し、自然の実に感謝しながら、お料理をおいしくいただきました。
子ども達は、乳幼児期から自然とかかわる体験をする中で、多くの情感や知識を身に付けていきます。キッズランドでは、より多くの自然とかかわる経験を取り入れていきたいと思っています。

中町南小学校

歴史探訪の旅 修学旅行



「こうやって染め物が

体験をしました。ていねいな説明を受け、みんな、真剣に取り組みました。一工程を経るごとに、美しいデザインの手がかりが生まれ、つていきます。

たお礼の折り鶴や習字は大変喜んでいただけました。外国の方との「心のふれあい」は、今回の旅行の大きな収穫でした。
2日目は、京都の友禅染めの体験をしました。ていねいな説明を受け、みんな、真剣に取り組みました。一工程を経るごとに、美しいデザインの手がかりが生まれ、つていきます。



10月17日から18日に、小学校生活最大の思い出となる修学旅行を、すばらしい晴天のもとで行なうことができました。

奈良・京都方面の「古都を訪ねて」がメインの修学旅行です。世界最古の木造建築「法隆寺」をはじめ多くの神社仏閣を見学しましたが、ここでは主に、現地での体験活動を紹介したいと思います。

1日目の奈良公園では、班の自由行動として、外国の方との会話が子どもたちには好評でした。「ハロー！」と勇気を出して声をかけると気軽に受け答えしていただき、サインもいただくなど、和やかなひとときを過ごしました。準備しておい



できあがっていくんやね。」「日本には昔から、こんなすごい染め物の技術があったんやなあ。」
日本の誇る伝統工芸にふれ、深い感銘を受けた子どもたちでした。子どもたちの作品は、家の人のよいお土産になったことでしょう。

校では・・・



中町北小学校

♪心に響いた小西達也さんのコンサート♪

病氣によって生まれたときから車椅子での生活を余儀なくされた小西さんが、「障害もひとつの「ちがひ」」。いろいろな「ちがひ」を持った人たちが同じように幸せに暮らせる街が本当に素晴らしい街なのです」と歌とお話で伝えてくださいました。参加した人たちの♪こころに響く♪コンサートになりました。「子どもたちがその場に立ったとき、私の話を思い出してくれたらうれしいですね。」と優しく話しておられました。



体験から学ぶ

自分でやってみること、その人とふれあうこと、本物と出会うこと…そこから学ぶことがたくさんあります。

アイマスク体験 ♪橋詰さんを招いて♪

アイマスク体験の前に、学校のすぐ近くにお住まいの視覚障害者の橋詰さんを講師に招き、お話を聞きました。若い頃に視力を失われてからこれまでの体験を聞かせていただき、障害を持つておられるようには見えなかったのですが、そうなられるには並々ならぬ努力があったということとを橋詰さんのお話とアイマスク体験から感じていました。



生の演劇にふれる

ピッコロ劇団「星のランタナ」

「星のランタナ」は、詩人の三木卓氏の童話をもとにしています。体育館全体をステージに使い、観客と一体となった躍動感あふれる楽しい舞台でしたが、楽しい中にも作品の深いテーマを子どもたちなりに感じとってくれたことが次の日の日記にも出ていました。



点字にふれる

4年生が総合学習の時間に、点字を学びました。教えていただいたのは、西脇点字友の会の6名の皆さんです。はじめに、「点字」が目の不自由な方にとって、とても大切なものであることを教えていただき、そのあと点字器を使って自分の名前や簡単な言葉を点字で書きました。短い時間でしたが、実際の点字にふれることができたのが何より貴重な体験となりました。



松井小学校

いろいろな人に出会った3日間

オープンスクール

11月6日～8日

11月6日(木)から始まったオープンスクール。期間中、延べ人数370名を超えるたくさんの方にお越しいただきました。芸術鑑賞や引き渡し訓練などの学校行事のほか、ボランティアの方と一緒に活動したり、ゲストティーチャーを招いた特別な授業を組んだり、地域のお年寄りを招いてのミニ発表会をしたりと、各学年・学級が創意工夫した授業をしました。また、校長室を無料喫茶店として開放し、保護者や地域の方々との対話の場となりました。

1日目

1年生は、保護者の方と一緒に、秋みつけで行ったハーモニーパークのリングでジャムづくりをしました。



2日目



3年生は、八千代区で長年ホテルの保護活動をしている小林義和さんにお越しいただき、自然環境とホテルの話をお聞きしました。とてもわかり

2年生の国語の時間に、町図書館の読み聞かせボランティアのお二人に来ていただきました。子どもたちは、絵本の世界に引き込まれていました。



6年生の体育(保健)の時間に、お酒やたばこの害について学校薬剤師の竹本さんから話を聞きました。



3日目

下校時におこなわれた引き渡し訓練では、園児・児童が訓練に参加していただいた方と一緒に歩いて家まで帰りました。





いま、学

八千代南小学校

わくわくタイムが始まるとドキドキした。1人目が言って2人目も言うと言いますドキドキした。とうとうぼくの出番。ぼくは大きな声で発表した。終わりの合図でドキドキがおさまった。



3年生(国語科)
ちいちゃんのかげおくり
国語科で『ちいちゃんのかげおくり』を学習しました。全校生の前で朗読をしました。学習の中で、ちいちゃんの気持ちや様子を読み取っていききました。そのことが、聞いているみんなに、どうすれば伝わるか考えながら練習しました。

わくわくタイム

一句が思い浮かんだが、すぐ消えた。
「森の中 風がふくと 木がおどる」
ぼくは、この一句を言い終わったあと、せなかの石をとってもらったような気分になりました。ためいきもでました。ぼくはそれほどきんちようしていたんだらうかと思いました。みんなもその気持ちだったんだらうかと思いました。

4年生(国語科)
俳句
9月から毎日「今日の一句」を作ってきました。自分の作った句を全校生に聞いてもらおうと思い、作った句の中からどれを発表しようか考えました。体育館で大きな声を出す練習をし、どうすればみんなに伝わるかなど意識しながら練習に取り組みました。



朝の全校集会で、「わくわくタイム」と名付けて、各学年で今まで学習してきたことなどを発表する時間を設けています。朗読、群読などをして一人ひとりが大きな声を出したり、楽器や歌などで表現したり、いろいろな工夫されています。他学年のがんばりや学習の様子がよくわかり、子どもたちもこの時間をとても楽しみにしています。



全校合唱で「全校一心」



全校合唱や吹奏楽部の指導などを正井明孝先生にお世話になっています。正井先生は神戸の中学校で音楽の指導をされたのち、八千代中学校にお住まいになり、それを機に、八千代中学校の音楽教育を支えていただいています。



3年生の学年合唱や全校(全員)合唱も行いました。全校合唱は4月から毎月一回練習をしてきました。文化祭での全校合唱は迫力ある合唱をすることができました。まさに、校訓である「全校一心」を合唱で実現しているのです。

生徒も担任の先生もすばらしい合唱を作り上げるために一生懸命がけられます。合唱の楽しさや喜びがこころに染み渡り、日々の繰り返しの中から生まれてきます。そして、クラスの一体感が育ち、温かい人間関係が育まれていくのです。

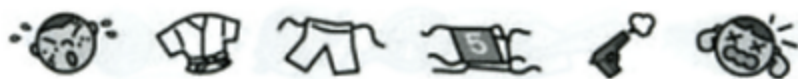
秋の深まりとともに、放課後ともなれば校舎のあちこちから美しいハーモニーが響き、それが折り重なって聞こえてきます。そして、日を追って力強さや心のこもった歌声へとかわっていきます。文化祭の合唱コンクールに向けてそれぞれのクラスで力の入った練習をしているので

歌声の響きあう学校
合唱で心をつなぐ八中生

はじめて、強い声が出た。うたがけと練習をひいてると、いい声も出せるようになった。大きな声で歌うと気持ちいい。みんなが大きな声で歌えたらいいなと思います。これからは、もっと練習をがんばって、文化祭でも練習のときみたいに大きな声で歌えたいと思います。

八千代中学校

の日記



心を鍛え、絆を深める

杉原谷小学校

本校、校区内にある千ヶ峰。1年に1度標高1006Mのこの山に子どもたちが挑みます。子どもたちはこの登山を通して心と体を鍛え、励まし合う中での仲間作りをします。日記の中からも子どもたちの心に芽生えたものがいま見えます。

「よしいくぞ！」という気持ちで、登山口から登り始めました。少し登り始めたところで「あーしんど」といってしまいました。でも、登り切ろうと思って一歩一歩力一杯登っていきましました。一歩一歩の積み重ねで頂上まで行けた時は、すごくうれしかったです。(中略) その後、記念さつえいをして下山しはじめました。下りる時は、登りよりしんどくありませんでした。順調に下りていたその時、Kくんが足をくじいたらしく、すわりこんでいました。ぼくは同じ班ではなかったけど、みんな先に行ったのでK君が歩けるようになるまで待っていました。(中略) 下山中にハブニングもあったけど、みんな無事下山できたのでよかったです。



金曜日に 千ヶ峰登山をしました。ぼくたち4年生は、ちよう上まで登りました。ちよう上まで登ったら淡路島が見えるかな。去年は、淡路島が見えなかったから、今年こそ見たいと思いました。(中略) お弁当を食べようとしたら、どこかのおばちゃん「ここで食べたらしきがいいよ」と教えてくれました。だから、ぼくはそこで食べることにしました。見ると緑が一面に広がりとてもきれいでした。淡路島は、雲で見えなかったけど、ラベンダーパークはつきり見えてうれしかったです。

八千代西小学校

車いす体験をした 私たちからの提案



6年生児童が「車いす体験」…実際に車いすで生活されている方、町の社会福祉協議会のみさんにお越しいただいて、「車いすの生活」について学びました。
手洗い場やトレイなど日頃何気なく使っている所を車いすに乗って使うを通して、施設面での工夫や課題、よりよく改善するアイデアなどを考えさせられることばかりでした。学習を終えた子どもたちからの「提案」を紹介します。

【提案その①】
車いすに乗った人が二階へ行きたいときは手伝う。

【提案理由】
学校では、引き戸が多いので、一人で戸を開けてトイレや部屋にはいることができます。また、高い段差が少ないので、手助けがなくても一人で移動することができます。このように、学校には車いすに乗った人でも快適に過ごすことができる工夫がたくさんあります。



でも、車いすに乗った人は階段を上ることができません。二階に用事があったとしても一人ではどうすることもできません。でも、車いすに乗った人が二階へいけなくて困っているのを見かけたら、手伝いをするとうれしいと思います。

子どもだけでは運ぶのが危ないので、大人の人を呼びに行きましよう。大人は、二人以上で二階まで運ぶとうれしいと思います。

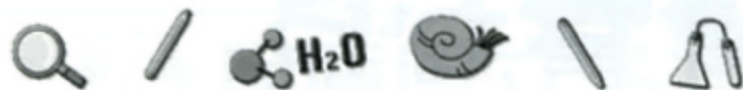
そして、手伝いをするなら、押す前に「押します」などの言葉をかけてから手伝ってください。もし、手伝いの必要がなければ、見守ってください。

【提案その②】

車いすに乗った人は、水道に手が届きにくいから、下にひざまで入るようなスペースを作る。



【提案理由】
車いす体験をして、水道で手を洗ってみました。前向きだと洗いにくくて、横向きにすると洗いやすかったけど、やっぱり前向きの方がいいと思います。だから、水道の下にひざが入るスペースを作ればいいと思います。



クラス

中町中学校



赤ちゃんだっこ！



多可町社会福祉協議会のご協力のもと『赤ちゃんボランティア』のお母さんとその乳幼児と交流することができました。生徒たちは慣れない手つきで赤ちゃんをだっこさせてもらいました。乳幼児たちの泣き声や、笑い声がまじるなか、お母さんたちの愛情あふれるお話を聞き、「子育ての楽しさ」や「命の大切さ」について学びました。

初め、みんながやっているのを見て、泣いている赤ちゃんもいたので不安になりました。でも実際、自分がやってみると楽しく、赤ちゃんも楽しんでくれたようで安心しました。無邪気な笑顔がとてもかわいかったです。自分の子どもに対して、「生まれてくれてありがとう」と言われたお母さんがいて、印象に残りました。今日はいろいろ勉強になりました。

(生徒感想)

赤ちゃんとふれあってみて、すごく育てて難いものだなと思うと同時に、すこかわいいな、ほしい！という気持ちになりました。また、エコー写真や、生まれたばかりの写真を見せてもらって、命の凄さに感動しました。赤ちゃんとお母さんたちを見て、いずれ私もあのようなだろうなと思います。私に子どもができたなら、大切に育ててあげたいなと思いました。

(生徒感想)

泣いている赤ちゃんがお母さんにだっこされたら、一発で泣きやみました。お母さんの存在は大きいなと思いました。

(生徒感想)



加美中学校

「CAPワークショップ」を体験して

加美中学校では、毎年、2年生と保護者を対象にCAPAのワークショップを開催しています。体験後の声を紹介します。

*CAPのプログラムでは、生きていくために必要な権利「安心」「自信」「自由」について学びます。そして、その権利を奪ってしまういじめ、虐待、暴力などから自分を守るためにどんなことができるかを、子ども達とともに考え、また、親、教職員、地域の人々に伝えていく、暴力防止・人権教育プログラムです。



これからは自分の悩みを打ち明け、友だちの苦しみを分かちあえる人になりたいと思います。そして、何があっても決してあきらめないということを胸におき、どんな困難にも立ち向かっていきます。

私は、自分の意見をあまり発表する方ではないのですが、ワークショップでは、自然に意見が言えました。昼休みに悩みを聞いてもらって、心の中のもやもやが少し消えました。

3人の指導者の方の、笑顔と明るさを見ていただけで、嫌なことを吹っ飛ばしてくれました。また会って、話したいです。

保護者対象ワークショップ



CAPのワークショップに参加してよかったと思います。子どもの気持ちにどう寄り添っていくべきか、大変勉強になりました。

【保護者感想】

学校で嫌なことがあったり、悩み事がある時は、友だちでも先生でも、親でもベツトでもいいから、とにかく相談することが一番安心できるんだということを教えてもらいました。

また、一人ぼっちの子や、元気のないうちがいたら、「どうしたん？」と声をかけたいと思いました。



保健室から

八千代北小学校

『三角食べ』で

おいしくなぐよ



食育の取組で、2年生に「三角食べとマナークイズ」について多可町の栄養士小塩由美先生に指導していただきました。

給食の時間2年生では、苦手の食べ物があつて食べ終わるのに時間のかかる児童もいますが、ほとんどの児童が時間内に給食を食べています。そこで、一度小塩先生に給食の時間を参観していただきました。2年生は食事について何でも食べるという基本は出来ていますが、『ばかり食べ』をしている児童が目立つことから『三角食べ』の指導を力エルの歌の替え歌を交えながら楽しく指導していただきました。また、楽しく学べるマナークイズもしてくださいました。



Q:配膳の時にご飯は右・左どちらにおくでしょうか？

「そんなの簡単～!! ご飯は左におくよ～」
ほぼ全員全問正解でした。

★児童の感想から★

(実際に給食を食べた後)

- 三角食べを初めてして、時間内に食べ終わりました。パンも残りませんでした。
- 「三角食べをしただけいいよ」とよく聞くけど、何で三角食べをしただけいいのかわかりませんでした。だけど、今日小塩先生がなぜ三角食べをしただけいいか教えてくれたのでよかったです。

園長先生の目



中町幼稚園

園長室の窓越しから見る園の一日

9時15分
登園をして朝の会を終え、一斉に園庭に飛び出す子ども達。一輪車乗り・跳び箱・ドラム乗り・竹馬・サッカー・縄跳び・フライング等々、友達と一緒に各自が思い思いの遊びを楽しんでいます。時には、けんかもしていますが、子ども達の顔は生き生きと輝いています。

*火曜日には、音楽サークル「ふらっと」さんが練習にお越しになります。その部屋の前で足を止め、その音色に聴き入る子がたくさんいます。

*木曜日には、就園前の親子の皆さん「けやきグループ」が、園庭で園児と一緒に過ごされます。

10時20分
鐘の音とともに、乾布摩擦。健康づくりに努めます。その後各部屋へ。廊下は「シーン。」部屋を覗くと絵を描いたり製作をしたりお話を聞いたり絵本を読んでもらったり、時には、辛抱がいること、約束を守ること、お話はしっかり聞くこと等を学びながら達成感成就感を味わいます。

12時給食
クラシック音楽をBGMに楽しくいただきます。終了後、園長室前を先生と当番が食器を乗せたワゴン車をガラガラ音を立てて通っていきます。

他の子は、園庭で好きな遊び。

1時20分
鐘の音で部屋へ。一日の反省と明日の予定を聞き帰る用意をして笑顔でバスへ。

2時
元気な声が響きます。「また、あーした。さようなら」

園の一日が終わります。

「はじける笑顔 輝く瞳 心やさしいケヤキ子」





兵庫県立多可高等学校

TEL: (0795) 32-3214 FAX: (0795) 32-3375 E-mail: taka-hs@hyogo-c.ed.jp http://www.hyogo-c.ed.jp/~taka-hs/

多可高校ではこんな生徒を育てます

「福祉のこころ」を育み、自らを磨き、地域社会に貢献することを通じて自己実現を図ろうとする生徒を育てます。

多可高校が目指す「福祉のこころ」は次の3つの心からなります。

- ・命を大切に、自分を認め、相手も認める思いやりの心。
- ・地域社会を支える共生の心。
- ・豊かな福祉社会を築く自発の心。

多可高校の特色

生徒一人ひとりの「福祉のこころ」を育むために、1年生が全員「福祉基礎」を学び、2年生から総合カルチャー類型、福祉ボランティア類型、情報ビジネス類型の3種類に分かれます。

総合カルチャー類型

大学進学への意欲を持った生徒を伸ばします

福祉ボランティア類型

福祉関係への進学・就職を目指す生徒の力を伸ばします

情報ビジネス類型

教養とマナーを身に付け資格を取得させるなど就職を目指す生徒の力を伸ばします



多可高校の活動のひとこま

川崎医療福祉大学・短期大学見学会〔7月〕



1、2年生特色選抜入学生徒が福祉系大学の最先端の研究内容を見学しました。自らの職業観、勤労観が明確になりました。

タイ王国との国際交流〔8月〕



生徒代表5名がタイ王国を訪問しました。この国際交流を通して、異なる風土や文化に触れ、国際的な視野が広がりました。

絵本の読み聞かせ授業〔9月〕



家庭科の授業で外部講師の指導により絵本の読み聞かせの技術を身につけました。地域の幼稚園でのふれあい育児体験に役立ちました。

体育大会〔10月〕



整然とした入場行進、全校生徒のきびきびとしたラジオ体操で幕をあげ、クラス・学年を超え、「多可高校・心ひとつ」を感じることができました。

修学旅行〔11月〕



オーストラリア・ケアンズの海外修学旅行での体験で、国際的な視野を広げ、一回り大きく成長して元気に帰国しました。

- ・私たちは「地域のために何ができるか」を考え、多可・西脇で積極的なボランティア活動を展開しています。
- ・タイ王国との国際交流や海外修学旅行などを通じて、国際理解を推進しています。
- ・多可高校で私たちとさまざまなことを体験・勉強し、ボランティア活動に汗を流しませんか。



教育委員会から「全国学力テスト」について

11月20日の新聞に「全国学力テスト」に関する記事が掲載されました。

その中で「全国学力テストを継続すべきか」という質問に関する記事では「全国的に大きな変化がなく、町独自で同等のテストをしている」という多可町は「継続すべきではない」と記事化されています。

この掲載記事に関して、多可町教育委員会としては、旧町から引き継いだ小学校全学年の児童対象の算数・国語の2教科、また、中学校全学年の生徒に対しては、5教科の学習到達度テスト(CRT)を実施し、学習状況の結果を踏まえ、指導方法等の改善に努めてきています。

(このテストは全国的に実施され信頼性の高いものです。)

今回の新聞社の聞き取り調査に対し、全国学力テストの様々な課題を踏まえた上で、実施することが必要であると伝えたと、全く反対する意味の内容で記事化されました。

多可町教育委員会としては、今後とも、町独自の取り組みをより充実させながら、全国学力テストの結果とあわせ総合的に指導方法等の改善に生かし、児童・生徒の学力の向上や望ましい生活習慣の確立に努めていく事になっています。

今叫ばれている「子どもの体力」とは

生涯スポーツ社会に向けて

今生活習慣の改善が叫ばれています。例えば、「早寝・早起き・朝ご飯」は、子どもたちもよく知っている生活習慣です。ここに「運動」を加えることにより、健康の3原則（食事、休養（睡眠）、運動）と言われ、ウォーキングをはじめ様々なスポーツが心と体を充実させるツールとして今見直されているのです。健康でたくましく生きる力を育む運動は、成長期にある子どもにとってもより重要になります。

ところが、小学生の「運動」に目を向けたとき、外遊びの減少・運動離れは深刻です。習い事の時間や安心・安全の問題による集団下校等により、放課後の小学生は、群れになつて遊ぶ機会が少なくなりました。地域では、少子化が顕著になる中、公園で遊ぶ子どもの姿は消え、テレビやゲームなどの屋内遊び、一人遊びが増加しています。小学校の高学年になるにつれて、体育が好きな児童が減るなど、興味・関心においても体育離れは進んでいます。

このように子どもが外遊び・運動をするための時間、空間、そして仲間が減少している事実が浮き彫りとなり、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。

全国の体力・運動能力調査によると、1985年度をピークとして子どもの体力は少しずつ低下しています。表1の1983年度と2006年度の全国平均を比べると記録の低下は明確です。表2で多可町の記録と全国の記録を比較すると、測定時の誤差もあるため、多可町はおおむね全国と同等と読みとれます。これらのことから、体力低下は特別な地域での問題ではなく、ここ多可町においても確実に進んでいることが分かります。しかし、小学生が筋力トレーニング（体力）をするこ

表1 体力・運動能力調査の年次比較（全国と多可町）

年度(対象・平均)	50m走(秒)		ソフトボール投げ(m)	
	男子	女子	男子	女子
1983年度(全国)	8.67	8.95	34.76	20.66
2006年度(全国)	8.89	9.22	29.46	17.24
2007年度(多可)	9.03	9.48	29.69	17.29

※全国平均値は、すべての小学生の平均値ではありません

表2 体力・運動能力調査の全国平均と多可町平均
(2006年) (2007年)

全国が優れている
多可が優れている

		長座体前屈(cm)柔軟性		反復横跳び(回)瞬発力		50m走(秒)走力		ソフトボール投げ(m)投てき力	
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
1年	全国	24.8	27.3	26.4	25.8	11.7	12.0	9.2	5.9
	多可	26.1	27.9	28.1	27.7	11.5	12.0	9.4	5.7
2年	全国	27.0	29.9	30.9	29.5	10.7	11.0	13.3	7.7
	多可	27.6	31.2	29.5	28.7	10.9	11.3	13.9	7.7
3年	全国	28.6	31.0	34.2	32.6	10.2	10.5	17.3	10.1
	多可	30.2	32.3	36.9	35.2	10.3	10.5	19.2	10.3
4年	全国	30.6	34.2	38.8	36.3	9.7	10.0	21.9	12.8
	多可	30.3	31.8	38.5	37.0	9.7	9.8	23.2	12.7
5年	全国	32.5	36.2	42.4	40.0	9.3	9.6	26.2	15.2
	多可	31.3	35.0	43.4	40.4	9.4	9.8	27.0	14.3
6年	全国	35.0	38.9	44.9	42.1	8.9	9.2	29.5	17.2
	多可	34.2	37.6	42.6	41.9	9.0	9.5	29.7	17.3

そのため、幼児期・児童期に竹馬、一輪車、マット運動（逆さ感覚）、ダンス（身体表現）などの神経系の運動をすることでその能力は大きく伸びるのです。小学生が、大人よりも早く一輪車に乗ることができるのもその一例です。このため学校では、体力調査の数字には表れにくい神経系の運動を取り入れた体育の時間が多

くなっています。幼児期・児童期には神経系の運動能力を養い、中学生以降に筋力を鍛えることでバランスのよい体力がついていくのです。

つまり、学校、家庭（保護者の方）や大人たちは、小学生の時期に体力調査の結果にとらわれ過ぎずに子どもが外で遊んだり、スポーツに親しんだりする機会を大切に、運動そのものの楽しさを十分に味わわせてやるのが求められているのです。

また、本年度は「多可町生涯スポーツ振興基本計画」（広報10月号で紹介）を策定中です。これは、多可町全体の生涯スポーツの振興における指針として、様々なスポーツプログラムを関連づけたり、見直したりして展開していくためのものです。特に、幼児期・児童期に焦点化すると、学校と社会体育団体（多可町スポーツ少年団、多可町スポーツクラブ連絡協議会、スポーツクラブ21ひょうごなど）との連携を図りながら、「気軽に」「親子で」のキーワードを掲げた運動機会づくりが課題となります。

学校、家庭、地域が協働し、幼児期・児童期の子どもの「運動」をする習慣を身につけさせることは、まさに、生涯を通じた心身の健康づくりにつながるのです。今、将来にわたって健康でより豊かなスポーツライフを楽しむ多可町を描くとき、子どもの「運動」のきっかけ作りは、重要な大人の役目でもあるのです。（文責 社会教育課 生涯スポーツ室）

※ご意見・ご感想をお寄せ下さい

【問い合わせ先】多可町教育委員会社会教育課 FAX: 0795-32-4142 E-mail: shakaikyoiku@takacho.jp